

富士河口湖町立 教育センターだより

No.23



平成28年2月10日 文責 中澤 敦子

富士山学習発表会…富士宮市



1月30日(土)第18回富士山学習発表会が静岡県富士宮市文化ホールで行われました。富士宮市にある全ての小・中学校35校の発表です。この日は午前中に、31校のプレゼンテーション発表会が、午後には4校のステージ発表が行われました。

本学習は富士宮市をあげて進めている「富士山を中心にした町作り」の一端を担うものとして位置づけられ、子ども達の地域学

習の充実と、また、発表者が伝えるだけでなく聞き手が能動的に関わるという互恵性を目指すものだそうです。

プレゼンテーションの会場では、子どもだけでなく保護者地域の人々に見守られながら、発表者が緊張した面持ちながらも自信を持って発表する姿がとても印象的でした。質疑の中でも、発表の中から生まれた疑問を自分の言葉で考えながら返答し合う姿に、子ども達が日々の学習の場で鍛えられてきているのだと感心しました。

ステージ発表では、「課題意識を持つこと、課題を追求していくこと、新たな課題が見つかること」という一連の活動が劇化され発表されました。モニターを利用し地域の人のお話を流しながら、学びの課程が分かり易く編集されているものばかりでした。

発表後、大ホールでは、富士河口湖町から見学に来ていることが紹介され、見学者を代表して船津小学校の小侯欽司先生が感想発表を行いました。



富士宮市では各校において、限られた総合的な学習の教育課程の中で富士山学習が1年生より系統立てられ丁寧に取り組みが進められています。そして、地域と共に生きる子ども達の郷土愛が育まれています。

自然・文化・産業・福祉・防災と、富士宮の地域を軸に取り組んでいる富士山学習は課題追求学習を通して、世代を超えた豊かなコミュニケーションの実現に発展しているのだということを目の当たりにした発表会でした。

今回の富士山学習発表会の様子は各校から参加して下さった富士山学習研究員の先生方に是非詳しくお聞きになってください。

